

<p>科目名：看護学概論</p>	<p>選必</p>	<p>1 単位</p>
<p>(Introduction to Nursing Science) 履修年次/時期：2 年次 前期 授業形態：講義 担当教員：棚橋泰之（実務経験あり）</p>		
<p>学修目的</p>	<p>看護の起源や変遷から看護とは何かを歴史的に学びながら、現代における専門職としての看護の機能を知り、看護学が人々の健康や療養に果たす意義について理解する。人々の健康に関するニーズや様々な看護の機能を知ることにより、看護提供者としての自己の考えを示す。</p> <p>導入科目として、看護基礎教育課程における学修動機を高め、専門科目の学習の基盤を築く。</p> <p>DP1 および CP1,2,4,6 に関連する。</p> <p>科目 No.S2D16S23</p>	
<p>到達目標</p>	<p>①看護の歴史的変遷をふまえ、人間にとって「健康とは」を説明できる。</p> <p>②看護の対象となる人々の特性について説明できる。</p> <p>③看護理論とは何かを説明できる。</p> <p>④看護活動を展開するために必要な倫理について説明できる。</p> <p>⑤看護師の役割と責任について説明できる。</p> <p>⑥医療チームにおける看護職と多職種間の共同の在り方について説明できる。</p>	
<p>授業概要</p>	<p>「基礎看護学」は、各専門科目の基礎となる看護学である。看護学概論では、看護の対象である人々をその人らしく、あるがままにまるごと受け止め人間を深く広く多面的に理解する姿勢を養う。従って「人間とは」や「看護とは」について深く探求すると共に、「健康」・「環境」について広く深く理解することにより、看護の対象論を中心に、人間観、健康観、環境観及び看護観を深めていくことをねらいとする。具体的な学習内容は、看護と健康の概念、先人の看護論、看護と環境、看護の対象および看護の機能と実践の理解とする。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 80 点、課題 20 点①看護理論家の考え方（10 点） ②読書感想文（5 点） ③私の看護観（5 点） 評価に対するフィードバックは掲示にて行う。</p>	
<p>予習・ 復習時間</p>	<p>【予習】 0.5 時間 【復習】 0.5 時間</p>	
<p>教科書</p>	<p>系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 看護覚え書き：フローレンス・ナイチンゲール著、湯槇ますほか訳、現代社 看護の基本となるもの：ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ますほか訳、日本看護協会出版会 看護学生必携資料集：メチカルフレンド社編集部、メチカルフレンド社</p>	
<p>参考書</p>	<p>必要時、提示する。</p>	
<p>オフィス- 連絡先</p>	<p>棚橋泰之 3 号館 3 階研究室 tanahashi@kdu.ac.jp 不在時はメールでお願いします</p>	